

No.228

2009年3月号

おれんじニュース

緋寒桜

★集会・委員会・行事関係のお知らせ★

★山行の一步は会合から★

	3月			4月		
第30回総会	—	—	—	4日(土)	10:00~15:00	西諫早公民館
運営委員会	10日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館	14日(火)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	6日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館	3日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	24日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館	28日(火)	19:00~22:00	西諫早公民館



あの日

あの山

fugendake 2009/1/18

Kotonoodake 2009/1/14

それぞれの思いを込めて
妙見神社に参拝



琴ノ尾岳(451m)にて
なんと、三角点は琴ノ尾神社の中に



3月の山行計画

	4日(水)	8日(日)	15日(日)	27日(金)
山名	井樋尾岳 龍石社方面から	オープンバスハイク 八万岳(763.6)・船 山縦走と牛尾梅林	九重マンサク鑑賞 牧ノ戸→沓掛山・星 生山→大曲	多良岳を佐賀太良 から長崎高来へ
	市内	佐賀県	大分県	佐賀県・長崎県
地図	長崎北東部	相知・武雄・多久	久住山・湯坪	多良・肥前大浦・古 枝・多良岳
集合場所		諫早駅裏 ¹ 列-8:00	諫早駅裏 ¹ 列-6:00	諫早駅発 7:10
	西諫早駅前 9:00	西諫早駅前 8:10	西諫早駅前 6:10	
帰着時刻	15:00頃	諫早着 17:00頃	19:00頃	諫早駅着 16:24
歩行時間	5時間	2時間40分	1コース4時間 2コース5時間	5時間
難易度	初心者向き	初心者向き	初心者とやや健脚	一般向き
交通手段	マイカー	マイクロバス	マイクロバス	列車・バス・タクシー
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温泉		有り	有り	なし
参加費		3,000円	5,000円	実費(列車・バス・ タクシー)
申込期限	1日(日)マデ	2月末マデ	満員になり次第締 切り	3月24日マデ
集約	技術研修部	組織部・自然保護部	山行部	ひまわり山行部
	米田テイ子 TEL26-0146	佐原 TEL 21-8645 中村か TEL26-6358	中須賀孝正 TEL 26-5153	江崎幸子 TEL 26-4819
備考	1. 里山山行 2. 地図の練習	ルート 諫早駅 8:00→西諫 早駅 8:15→池高原 9:30→船山展望園 13:00→牛尾梅林 14:30 温泉入浴 15:30 諫早帰着 17:00	1. コース 初心者向き 牧ノ戸→沓掛山 →牧ノ戸→バス→ 長者原→指山→長 者原	太良駅からバス 中山キャンプ場→ 多良岳→轟の滝 タクシー湯江
感想提出	3月14日(土)	3月18日(水)	3月25日(水)	4月6日(月)

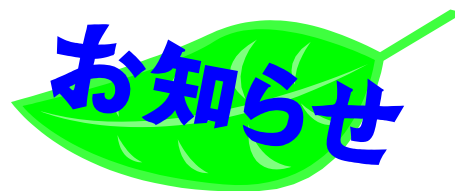


4月の山行計画

	8日(水)	11日(土)～ 12日(日)	24日(金)	26日(日)
山名	長崎原爆遺構巡り	^{ゆるぎ} 緩木山(1046m) ^{こしきだけ} 越敷岳(1022m)・ ^{つつがたけ} 筒ガ岳(1296m)	春の里歩き 小長井→サザンカ 高原→湯江	酒呑童子山(1180m) ハナグロ山(1086m)
	浦上駅～金比羅山 他	祖母・傾山群	高来・小長井	(津江山地の山)
地図	長崎東北部 西北部	豊後柏原・祖母山		鯛生
集合場所	諫早駅 8:47 発	諫早駅裏 ^{ロー} 列 6:00	諫早駅前	諫早駅裏 ^{ロー} 列 6:00
		西諫早駅 6:10	バスターミナル	西諫早駅 6:10
帰着時刻	17:00 頃	12日 19:00 頃	諫早駅着 16:24	19:00 頃
歩行時間			6 時間	5 時間
難易度	初心者向き	初心者・一般向き	一般向き	初心者向き
交通手段	列車	マイカー	往路 県営バス 復路 列車	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	テント泊		日帰り
温泉	なし	有り	なし	日田温泉
参加費	交通費	10,000 円程度	バス賃・列車賃	5,000 円
申込期限	前日まで	4月4日(土)まで	4月21日(火) まで	4月運営委員会 まで
集約	自然保護部 中村(か)まで	技術研修部 米田まで	ひまわり山行部 江崎まで	山行部 中須賀まで
	TEL 26-6358	TEL 26-0146	TEL 26-4819	TEL 26-5153
備考	浦上駅～穴弘法～ 金比羅山～浦上天 主堂～平和公園	詳しくは偵察終了 後連絡	歩行時間 6 時間 田原溜池～湯江駅 携行品 弁当・飲料水・嗜好 品・健康保険証・他 装備 軽登山靴 ウォー キングシューズ等	鬼神伝説の大江山 や伊吹山と同様の 山。近くに金鉾山 鯛生金山跡がある。
感想提出	4月18日(土)まで	4月22日(水)まで	5月4日(月)まで	5月6日(水)まで

第30回 定期総会

4月4日(土)



10:00 より 西諫早公民館にて

簡単な昼食を用意してお待ちしております。
総会後は御館山公園にてお花見の予定です。

技術研修部から

3月～4月のロープワーク（セルフレスキュー）のお知らせ

◎事故をおこさないために

日 時 3月28日(土)

4月25日(土)

集 合 JR西諫早駅 9時30分

場 所 御館山

あなたの参加を待っています！



1月・2月の山行報告

1月14日(水) 琴ノ尾岳

<参加者> 中村か、江崎、佐原、金丸な、林田、下釜、松園、米田、川原、松尾と平、坂口 計12名

<行 程> JR本川内駅～扇塚公園～琴ノ尾岳～松ノ頭峠～千々石ミゲルの墓～JR大草駅

<記録と所感>

JRの諫早、西諫早、喜々津各駅から乗車した13名は本川内駅で下車、8時50分、コース確認をして琴ノ尾岳に向かう。木場集落のコンクリート舗装路はかなりの急坂、長与ダムを右に眺めながら皆元気に歩を進める。峠にたどり着くとそこは扇塚公園。男性たちは若かった頃にタイムスリップして鉄棒で逆上がりに挑むが、若返えったのは気持ちだけで身体は残念ながら「じじい」のまま。

9時45分、皆で体操をして出発。みかん園路を抜けると杉林の急坂。汗ばみながら進むと突然開けた丘が現れた。ここが今日の目的地であ



る標高 451m の琴ノ尾岳。頂上は展望台になっておりその一隅に琴ノ尾神社が祀ってあった。なんと、三角点は神社の中に。遠くはかすんでいるが、360 度の展望はすばらしい。

スマートな女神大橋の手前に長崎の街がちっぽけに見える。記念撮影を終え、10 時 30 分次の目的地へ向かう。

琴ノ尾岳の東側舗装路は広い車道となっており大きくカーブして景色がパノラマ写真のようだ。山麓には出発地の本川内駅と線路、家並みが箱庭のように眺められた。空腹を覚えた頃に長与町と旧多良見町の境界点である松ノ頭峠を通過、みかん園路に入り込み弁当タイムとする。

12 時 15 分、JR の線路を右手に眺めながら一気に坂を下ると野川内の集落へ。線路下を美しい煉瓦積みのトンネルが通じており、その先に遣欧少年使節の一員千々石ミゲルの墓と思しき石碑。根拠は裏側に刻まれた建立者の名がミゲルさんの息子であるからとのこと。

不思議に思えたのは、何故、著名な方のお墓が周囲に何も無い山の斜面に一基だけぽつんと建っているのか・・・？ まあ、それはさておき、疲れを覚えた足に気合いを入れ直して一路大草駅へ向かう。

やれやれ、駅にたどり着いたはよいが、次の汽車が来るまでに 70 分の時間があるという。

てっきり時間を持て余すかと思いきや、そこは今日のリーダー中村さんのさすがと思わせる提案で、会の懸案事項を検討すべく会議を開くことになった。議題は「理事、役員の後継選定のあり方」、「県連への対応と理解」など。有意義なひとときであった。

帰りの車中、いつもとは違う足の疲れを感じる。それもそのはず、今日歩いた道はずっと舗装路であった。琴ノ尾岳は大村湾を望む絶景の場所なのだから、県央地域住民の森と位置づけて、展望台や舗装道路を廃し、もう少し自然に戻してもらいたいものだ。

(坂口 荘一 記)

1 月 18 日(日) 雲仙岳(妙見・国見・普賢)山行

<参加者> 1 班 中須賀 CL、鎗水 SL、川原、森田、田中(静)、川内、林田(ム)、中野 会計
2 班 福岡 PL、兵庫 SL、中村、松尾(と)、中村(か) 会計、下釜、金丸(な)、本田
会員外 1 名 計 16 名

<行 程> 曇 JR 諫早駅裏 7:00～JR 西諫早駅 7:10～木場交差点 7:50～池ノ原 P 8:14～
同発 8:30～仁田峠着 9:00～同発 9:25～妙見岳ロープウェイ 駅着 9:55～同発 10:10～
国見別れ 10:30～国見岳 10:45～国見別れ 11:00～紅葉茶屋 11:19～普賢岳 11:50～
同発 12:00～紅葉茶屋 12:18～あざみ谷 12:30—(昼食)—同発 13:00～仁田峠 13:20～
小地獄・青雲荘(入浴)14:10～14:40～諫早着 16:19

<感 想>

本年初のバスハイク、すっきりしない空模様、今日一日雨にならない事を念じつつ、フリーダム・レンタカー野崎司さん運転で予定通り定刻出発。

池ノ原駐車場で中須賀さん指導のもとストレッチを済ませ、残雪を踏みしめ登り始める。仁田峠で全員アイゼンを装着し妙見岳へと向かう。

妙見神社へそれぞれの思いを込めて参拝、記念写真撮影後国見岳へ向かう。山道両脇のミヤマツツジが寒風の中既に芽吹いており、我々に頼もしさを与



えてくれていた。

国見岳頂上は風強く直ぐ下山。鬼人谷周辺は強い風が吹きあげており用心して下った。

紅葉茶屋で、この日初めて中年の夫婦と思われる二人と出会った。普賢岳頂上まで川原さん、中須賀さんの励ましで登る事が出来て良かった。

下山途中久留米からの男女 30 有余名の一行と出会い、路を譲りあざみ谷に向かった。全員揃ったところで昼食を済ませ仁田峠に向かった。バスに乗り込んだところで小雨が降って来たが濡れずにグッドタイミングであった。その後、小地獄と青雲荘の二手に別れ、温泉で疲れを癒し心身共にリラックスできて帰路につき、配られたビールや清酒で歌や話で盛り上がり有意義な山行でした。

(松尾敏晴 記)

1月23日(金) 岩松駅から三浦(大村)散策

<参加者> (CL) 小山 川原 松尾(敏) 佐藤 佐原 江崎 本秀 中村(か) 林田 下釜
岩永(幸) 酒井 川内 計 13名

<行程> 諫早駅 9:01～岩松駅 9:09－9:15→鈴田牢跡 9:30→平和仏舎利塔 10:20→
三浦かんさく市(昼飯) 11:50－12:25→硯出石 12:45→讚州谷・藩境石塚入口 13:25
→ふれあい会館(解散) 13:50

<感想>

この冬最大の寒気団が下りて夕方から雪とラジオ、テレビが盛んに報じ今にも降り出しそうだが、今回は山と違って天気の変化に対応しやすいので気持ちは軽く、汽車の中で皆さんの顔を見たらこれからの散策が益々楽しみになってきた!

岩松駅で車を降りまず行ったのは鈴田牢跡、狭い所に35名のキリシタンが閉じ込められて生活していたという…キリシタン弾圧の時代が偲ばれた。

次に行ったのが平和仏舎利塔、大村を通る度に山の上にそびえるこの塔を見て一回行って見たいと思っていた。なるほど大きな仏像で、飛ばされそうな強風の中一周したが、360度の展望は見事で、海のある風景はやはりいいなー!これで天気が良ければ最高だが…。

仏舎利塔から三浦地区の県道に向けて海を眺めながら歩いたが、道端の梅の枝には蕾が一杯付いていて春の準備は万端のようだ。こんな山の中にとと思われるのに新築のしゃれた家が所々に建っている。誰かの言によると、海が見える風光明媚なこの地に芸術家に移り住んでいるらしいとのこと。又、民芸品店・陶器店・喫茶店・食べ物店などもあった。「こんな所で経営が成り立つのか?」と要らぬお世話をしていると「道楽で開いているのかも…」と誰かが言った。二～三寄って見たがどこも開店していない。県道近くに「金、土、日開店」などと看板が出ていて納得した。

三浦小学校近くの三浦海岸を目の前にした県道沿いの農産物直売所で買い物、トイレを済ませ日岳公園に向け出発しようとしたがパラパラと雨が…、そこで直売所の大きな倉庫を借りて昼食、物々交換もあり賑やかなこと。

雨も止んでいたので出発、日岳公園は省略して今村地区へ。途中、硯出石の観音様にお参りして今川沿いに讚州谷・藩境石塚入口へ。ここで、小山先生から讚州谷の豊かな自然、

その自然を守る事の大切さや現状、大村・諫早の藩境石塚などについて教えていただいた。ふれあい会館で解散となったが本日の歩数二万数千歩、コタツで丸くなってないで参加してよかった!

皆さんお疲れ様でした。小山先生ありがとうございました。

(川内 美智子 記)

1月31日（土） 英彦山（1180m）南岳（1199.6m）北岳（1192m）

<参加者> 川原(C L)、米田(S L)

1班：松尾、松園、山下、山崎、森田、林田

2班：中須賀、田中し、中村し、下釜、酒井、中野

会員外1名 計15名

<行程> 6:10 西諫早発→8:00 杷木IC→8:50 英彦山銅鳥居→9:35 奉幣殿
→11:10 中岳（英彦山神社）→11:30 南岳→12:10 中岳（昼食）→12:50 北岳→
13:55 高住神社→14:30 石楠花の湯→17:45 諫早着

<感想>

天気予報通りの雨、午後からは曇りになるかも…という淡い期待を乗せて、車は陶器の里小石原を経て英彦山登山口銅鳥居（かねのとりい）に着く。雨は降り続けている。

雨具をつけ、傘を差してとりあえず奉幣殿まで石の参道階段を登っていくことになる。

石段は幅が広いので傾斜のきつさをそう感じないが、濡れて滑りやすいので皆用心しながらゆっくり登った。30分余で奉幣殿着、中須賀氏の号令で体操。

この日は中須賀氏の40年来の友人という、福岡の藤井さんが合流され挨拶を交わす。

ここからは2班に別れ中岳を目指す。一の岳展望所までの20分は辛い登りであったが、この後は緩やかな登りとなり、鎖場から杉の巨木帯を過ぎ、秀吉の時代、財政難から入山料を取っていたという関銭跡を過ぎると行者堂の前に出た。平坦な山道をしばらく歩き、広く緩やかな石段を登りきると中岳上宮に着いた。

南岳は雪が残っているということで、待機希望の4人を上宮に残して南岳へ・・・普通なら10分くらいの距離らしいが、北側の急斜面は雪が固まっており、用心しながら上ったので、往復30分くらいかかった。

上宮の裏手にある山頂広場の避難小屋で昼食を取り、木柱横で記念写真撮影をした後北岳へと向かう。中岳から急坂を下り、ブナ林と笹原のゆるやかな道を登ると30分で北岳に着いた。石祠と縄囲いのようなものがあつたが意味はよくわからないまま尾根道を東に下り、鞍部から北に向きを変え自然石の石段を下った。雪が随所に残っており露出した石も凍っているので危ない。一箇所急坂の鎖場があり、皆苦戦していたが無事に降下、北岳を過ぎた頃より雨は小雪混じりの曇になる。望雲台への分岐まで降りると雪はほとんど消え、緊張感からやっと開放される。逆鉾岩や屏風岩の奇岩を仰ぎ見て、高住神社まで一気に下った。

北岳から約1時間の行程であったが、修験道の厳しさを垣間見た下りであった。

高住神社では住人らしき女性が声をかけてくださり、英彦山や神社にまつわる説明を詳しく教えていただいたが、早口で流暢に話されるのでメモが追いつかない。相槌を打ちながら聞いていたものの、「あなた方は1500年の歴史の道を縦走してきたのですよ」という言葉だけが耳に残った。神社の傍らに石碑があり、「霜冷はしのび寄るもの豊前坊」という句が刻まれていた。松尾さんから「感想係は記録しとかんば」というアドバイスをいただきここに記すことができた。

英彦山は日本三大修験場として栄えた霊山であることは知っていたが、49の洞穴信仰の神社が祭られている山とは知らなかった。新たな知識を得ることができたが、凍った石段下りで怪我人を出さないで済んだことが何よりの山行であった。

英彦山神社のすぐ近くにある石楠花の湯で汗を流し、ビールにありつけるまで1時間近く我慢しなければならなかったが、高速に乗る直前には喉を潤すこともでき、17時45分、満たされて無事帰着した。

（松園朱美 記）

1月22日(木) 自主山行 天山(1046m) 屏風岩(816m)

<参加者> 川原、国分、山下、松園 (4名)

<行程> 8:00 諫早発→9:00 多久IC→9:50 天山スキー場→10:10 天川駐車場
→10:40 天山頂上→11:30 雨山→12:00 天山→昼食→13:40 七曲峠→
屏風岩 14:40→15:30 七曲峠→佐用姫の湯 16:45→18:00 諫早着

<感想>



川原さんのスキー同行に、山下さんが山登り組を探しているとの情報があり手をあげた。

山下家に迎えに来た川原さんの車で出発したが、この日のためタイヤをスタッドレスに変えたことを知らされる。多久ICで国分さんと合流し、巖木経由で天山スキー場を目指す。高度が上がるにつれ道路の両側に雪が残っている。スキー場で天山登り口への道を教えてもらった後、車で天川駐車場まで送ってもらう。七曲峠で落ち合う約束をして川原、国分のスキー組と別れた。

女二人旅の山行である。駐車場から頂上は目の前に見

えており、楽勝楽勝と思いながら上り始めた。先行は突撃隊長の山下さんである。

登山道の途中には、吹き溜まりが結構残っており、時々雪に足をとられながら30分余で山頂に着いた。我々の他には長崎から来たという夫婦と思しき一組がいるだけだった。

縦走には逆走になるがすぐ傍に見える雨山にも足を伸ばすことにした。片道30分、往復1時間である。天山に戻り着いた頃昼になったので、展望を楽しみながら笹竹の茂みに腰を下ろして昼食を摂った。晴れていれば、佐賀平野や有明海、雲仙岳などの雄大な景色が楽しめるのだろうが、生憎の冬曇りで眺望は今一だった。



スキー場が見えるかなと思っていたが、こちらも駐車場の一部が見えただけであった。雪が残っている平坦な枯れ野原を1kmほど進むと下りになり、七曲峠までは樹林帯の雪解け道が続いていた。新緑の頃はきっと美しいだろうなあと思いながら黙々と下る。七曲峠に着いたのが13時40分、彦岳まで往復すると16時近くになるので、二人で相談し、とりあえず屏風岩まで足を伸ばすことにする。

最初の山が急登で息が上がったが、後は多少の登り下りが続いただけで想いの他歩き易かった。まもなく先方に杉の倒木が左右から何本も道を塞いでいるところがあったが、山下突撃隊長は物ともせず倒木を乗り越えて行くので後に続いた。屏風岩までのコースタイムは35分とガイドブックに書いてあったが30分ほどで着いた。

岩に登ると見晴らしがよさそうであったが、岩が凍っていたら危ないので中止。

証拠写真をお互いに撮って、川原さんに落ち合う時間の電話を入れた後復路を戻る。

七曲峠でみかんを食べていると、川原、国分組が到着し無事に合流した。

途中の雪道でスタッドレスタイヤが功を奏したようで、タイヤの試走もできてよかったと川原氏はにこやかであった。スキーも11本滑ったので元はとれたとのこと。

多久ICで国分さんと別れ、佐用姫の湯で汗を流して諫早帰着は18時であった。川原さん声かけてくれて有難うございました。そして山下隊長サンキュー

(松園朱美 記)

1月31日英彦山に登ってみて、あの石段の多さにびっくりした。しかし、以前の私ほどはねをあげなかった。これは、なぜ？実はここ2か月あまり、暇さえあれば御館山に登っている。

しかも、石の階段が多い中、登ったり降りたり登ったり降りたりくりかえす。約99メートルの山らしいが3回登るので、300メートルの山に登って降りることになる。無論、雨の日も、風の日も。家から近いので移動手段がいない。シルバー人材の方らしき人達がおられるので、一人歩きも比較的安心。小鳥がさえずり歓迎してくれる。

頂上の展望台は眺めすばらしく、運動公園のまわりのメタセコイヤが色づくながめや、白いカモメのすれ違う様子がみられる。また、御館山神社の境内の前を行ったりきたりするので、時々願い事もかなえていただけるかもしれない。(これはないかな?)さて、ルートが面白く変化にとんでいる。このルートは米田さんが考えて組み立てたルートらしいのだが、なるべく土の所を主に歩くようにふわふわの山の中、またきれいに苔むした歩道を目いっぱい楽しむルートに構成されている。体調が悪いときは、短めのコースでさよならすればいいし。トイレもあるし。おれんじの誰かが「わたしの山だ」って御館山のことを言われてたけど、おれんじのロープワークもここでやってるしおれんじ御用達の山ということにしたらいかがでしょう。ついでに山行の集合などもここだと車の駐車場で困ることもないですよ。ただ、やっぱり、この石段や道路は滑りやすいので、常に注意が必要です。

かくいう私も10日の日、第一あずまやから第二あずまやに歩いて舗装道路の下りのところでころんでしまって左ひざに固定帯みたいなをはめられています。用心用心です。雨の後は落ち葉の上を歩くだけで滑ったりしますね。なんでもないとこで。そんな道路での訓練もできる御館山登山の訓練のすすめです。

(山下ちず子 記)

ひと

「還暦過ぎたらスキーデビューを」と呼びかける

ひらさわ ふみお
平沢 文雄 さん(74)

スキーは70歳を過ぎても毎年うまくなれるのだそうだ。定年を迎えたらぜひゲレンデへと、団塊の世代を誘う。「全身運動でバランス感覚やとっさの判断力を養える。高齢者の体調管理に最適です」

「滑って転んで危険では」との疑問には、90年代に登場した短めのカービング板など用具の進化をあげる。体力が落ちても楽にターン出来るようになり、「すぐ上達が実感できる。無理を避ける大人ならではの滑りと注意力で、事故も防げる」。

雪深い新潟県小出町(現魚沼市)生まれ。17歳で本格的にスキーを始め、65年、全日本スキー連盟が模範スキーヤーを認定する第1期デモンストレーターに。83年まで21年間、校長などを務めた新潟の「浦佐スキ

「学校」時代は、受講生が全国から集まり「浦佐詣」と言われた。計6シーズン放映されたNHKテレビのスキー講座では「トントン、ツ」。「ギュー、ボン」といった音を使った指導で知られた。

いまは都内に事務所を構え、海外を含め年150日は雪の上に立つ。昨秋には中高年向けノウハウを集大成した教本も出版した。

「雪は争いの元となる境界線を隠す。だから人は癒やされ、安らぐ」

「ゲレンデにマナーはあって、ルールやペナルティーはない」「寒い所に出掛け、斜面を滑落する恐怖を克服する。若さを保つ秘訣だ」。教えるのは技術だけではない。「スキー伝道者」を自任するゆえんだ。

文・写真 鶴沼照都



—2009年1月27日付 朝日新聞より—



あの日
あの日
Hikosan 2009/1/31



英彦山天狗



数年前から諫早の小野干拓地一帯に鶴が越冬。
鍋鶴が約7、80羽、真鶴が約30羽程、合わせて100羽前後と思われる鶴が12月中ごろから二ヶ月近く越冬しています。写真は真鶴の数家族。

マナヅルの赤き眼捉へし双眼鏡
鶴唳の野面を渡る干拓地
ごろた積む旧き堤防草青む



